

令和4年度 研究推進計画書

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>外国語科研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>言語活動を通じた小中連携の工夫 ～自己調整学習の視点で考える～</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力</p>
<p>研究内容</p>	<p>学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力」を育成することが示されている。ここで目指している資質・能力を言語活動を通して効果的に育成するために、昨年度の研究会議では「言語活動の場面や題材をどのように設定していくかなど具体的な進め方について引き続き研究を進めていく必要がある」という課題が示された。教科書の新出言語材料だけを扱った活動ではなく、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、児童・生徒に思考・判断させる活動を繰り返し設定していく必要があり、昨年度の研究会議の成果の一つである CAN-DO リストスタンダードを活用しながら小学校でどのような言語活動が、どのような言語材料が用いられ、どのような教材で実施されていたのかを把握することは、中学校における言語活動の質を向上させることに寄与すると考える。小・中学校それぞれの学校でどのような言語活動が行われているかを知り、どのような言語活動を設定することが7年間を通じた資質・能力の育成に効果的なのか、またそれぞれの言語活動の振り返りを次の活動に生かす手立てを研究していく。</p>